

## 令和5年度 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2階大会議室

R 5.10.13 18:30~20:30

### 1 開会

司会：健康増進課課長補佐

### 2 議事

#### ①令和4年度事業報告、令和5年度事業計画について

事務局より説明

##### 【田岡会長】

事務局の方から令和4年度の報告と今年度の計画について説明があった。

歯科医師会が委託を受けて実施している医歯薬連携推進事業については、医師会・薬剤師会・歯科医師会で令和5年度も取り組む予定である。

令和5年度の予定について、まずは歯科医師会の沼田委員から説明をお願いしたい。

##### 【沼田委員】

先ほど事務局からも説明があった医歯薬連携推進事業は、医師会・歯科医師会・薬剤師会が協働で、歯科口腔保健に関することを様々な形で周知する取組を行っている。

昨年度は、歯周病と全身疾患に関する学習会を開催し、また、皆さまのお手元にある糖尿病と歯周病の関係についてのリーフレットを作成した。糖尿病と歯周病の関わりだけでなく、まずは健診を受診しようということで、高知市の健診各種についても掲載し紹介している。

我々職域世代は、歯周病や糖尿病予備軍になる方が非常に多いので、今年度はこのリーフレットを高知県産業保健総合支援センターや高知県総合保健協会、高知検診クリニックに配布し、置かせてもらっているため、みなさまが特定健診を受けられた時に目にすることがあるかもしれないし、みなさまの業務等で活用することがあれば、高知市歯科医師会の方に言っていただきたい。

#### ②第三期高知市健康づくり計画 歯科口腔保健の取組について

事務局より説明

##### 【田岡会長】

事務局より第三期の高知市健康づくり計画、歯科口腔保健の取組について説明があった。

前回の口腔保健検討会の後、実施した市民へのアンケート結果等を踏まえて高知市の現状と目標値をこの最後のページに書かれているということだが、この目標値の案を見ながら、これから話を進めていく。

まず子どものむし歯について、49枚目の歯・口腔に関する健康格差の縮小の表にある「3歳児のむし歯4本以上あるものの割合を3.7%から2.5%」とあるが、私が幼稚園とか小学校で健診をしても二極化というか、ある子とない子の差が激しいなど実感している。

委員のみなさまが普段現場で感じている課題とか、何かご意見をいただきたい。

まずは、片岡委員、歯科衛生士会は3歳児健診等に関わると思うが、健診に関わっていて感じる健康格差等について何かあったらご意見をいただきたい。

#### 【片岡委員】

歯科衛生士は、乳幼児健診で歯科保健指導を続けてきている。

その中で最近感じることは、保護者がテレビとかインターネットでいろいろな情報を得ている。子育てにすごくこだわりがある方が多いと思うが、我々はエビデンスに基づいて正しい情報をお伝えし、判断は保護者にお任せするというスタンスで取り組んでいる。

本日このような目標値や目標項目を示していただいたことで、国とか県とか市のお墨付きをいただいたことを、目標を持って説明ができるので大変ありがたい。

最近、3歳児健診では、お口がぼかんと空いている子どもが多く、お口周りの筋肉が弱っているなどという印象を持っている。

目標値の中で、「3歳児でぶくぶくうがいをしているものの割合」というのが出てきたが、今までむし歯とか歯肉炎の目標値はあったが、口の機能についての目標はなかった。子どもたちはぶくぶくうがいをするにしても1回ぶくぶくしてペッと吐き出すのが現状のようなので、この項目は大変大事なことだと思う。

かむことについては、離乳食とともに獲得していく機能だと思うので、その子の発達に応じた離乳食の指導が必要になってくると思う。

保育園の先生にお伺いしたいが、よくかんでいると、顎の成長により歯と歯との間にだんだん隙間が開いていく発育空隙ができてくるが、最近はそのような歯並びの子が多いのか、少ないのか、事例などあれば教えてほしい。

#### 【田岡会長】

水口委員、今の質問も含めてですが、園ではフッ化物洗口に取り組んでいて、効果も出ていると思うが、むし歯が多い家庭への働きかけや、園で実施している何か取組等もあれば教えてほしい。

#### 【水口委員】

先ほどお話にも出ていたが、二極化は進んでいると思う。

家庭によってはむし歯だらけの子もおり、保育園では声のかけ方もなかなか難しく、保護者に「むし歯がたくさんありますね」と言っただけでは伝わらないので、今日配布しているリーフレットなど周知できるような資料が、市を通して回ってきたら認識も変わるのかなと思う。

先ほど質問があった、歯並びが空いている子は、結構うちの園ではいるような気がする。

3歳児でぶくぶくうがいをしているという目標値があったが、うちの園ではフッ化物洗口を4、5歳で行っていて、3歳児はお水で練習をしている。

最近では、あいうべ体操が少しずつ広まってきているので、うちも取り入れたいと思っているが、こういう体操を知らない保護者の方もいるので、ぜひ市を挙げてパンフレットを配布して、保育園で1日1回やってみましょうという取組をしたら、もっと口の動きがよくなるのではないかと思う。

あとフッ化物洗口の実施施設数が年に3園ずつ増えていくというのは、なかなか難しいとは思いますが、ぜひ園長会等でフッ化物洗口の良さ等を伝えていただければと思う。

#### 【田岡会長】

あいうべ体操の指導は、行政から誰か行ったりできるのか。

#### 【健康増進課】

毎年フッ化物洗口のアンケートを園と小学校に行っているが、そのアンケートの中で、園には、口腔機能育成のためのお口の体操指導にも行きますと周知し、希望の園には、口腔保健支援センター職員が支援に行くという体制を取っているが、コロナ禍でもあったため希望がない状況だった。希望があればどんどん行かせてもらう。

#### 【田岡会長】

続いて、中学生のむし歯については、49枚目の表の12歳児の一人平均むし歯本数を0.59本から0.3本、50枚目のう蝕の予防の表に、12歳児のむし歯のあるものの割合を28.9%から25%とある。

園や小学校でのフッ化物洗口が少しずつ広がってきているため、中学1年生ではむし歯になっている割合、一人平均むし歯本数ともに減少しており、今後の目標達成のためには、小学校でのフッ化物洗口実施施設数の増加が課題だと思う。

53枚目の表にあるフッ化物洗口実施施設数の増加については、園37%から70%、小学校26%から60%に設定されている。実施施設数についてはこれまでも検討を重ねてきたが、少しずつ増加している状況である。

今回は、目標値にはないが、中学3年生のむし歯はまだ多く、中学校の間にむし歯になっている生徒が多いという報告もあったため、今後中学生の取組についても検討していくことが大切だと思う。

まずは松岡委員、中学校におられたということだったので、中学校のむし歯の状況とか、中学校でできそうな取組についてご意見をお願いしたい。

**【松岡委員】**

昨年度、歯科医師会が自主校長会で説明を行った時は、中学校を除いて小学校の校長だけが対象であった。

小学校でフッ化物洗口を実施する学校が増えることはなかなか難しい状況にあったとしても、昨年度の説明会で話を聞いて、歯のこと、フッ化物洗口に関するることについて興味を持った校長先生が多くなったというのは事実である。

昨年度は小学校だけを対象としたが、自主校長会は小中学校合同でやっている時間帯があるので、両方の校長を対象に、毎年続けて啓発していくということが大事ではないかと思う。

中学校では、やはりむし歯を少なくする方法を啓発すると同時に、実施する時間帯の検討が必要である。朝の時間である学活のあり方を検討し、その時間を活用してのフッ化物洗口について一案投げかけてみるのもいい方法じゃないかと思う。

**【田岡会長】**

松本委員、保護者の立場から、中学校でむし歯が多くなるという報告を受けて、中学生になると部活があったり、授業が忙しかったりというのもあると思うが、PTAの立場から何かご意見あればお願いしたい。

**【松本委員】**

お話をお伺いした中で、まず小学校のフッ化物洗口が増えていかないということだが、市P連には、各校のPTAの代表が集まっているので、そこで、広く情報を周知していけば、学校によっては、乗ってきてくれる管理職の方もいるので一定の効果があるのではないか。

前の会の時にも、市P連の会で講習会等を実施していけばという話になり、まだ一步踏み出せてはいないが、まず保護者に情報を与えていくことが大切だと思う。

あと、中学校の話でちょっと思いついたのは、中学生になると生徒会が自主的にいろいろな活動をしている学校が多く、子どもたちに課題を与えてあげると乗ってきてくれたりする。学校の先生にもお願いをするべきだと思うが、生徒会の方に、休み時間に、フッ素でぶくぶくうがいをやってみないかというような働きかけをしていけば、乗ってくる学校があるのではないかと感じた。

**【田岡会長】**

生徒会というのはちょっと思いつかなかったもので、いいかもしれない。

**【田岡会長】**

続きまして、成人期のむし歯について、50枚目のう蝕の予防の表の、40歳未満の未処置歯を有する者の割合を40.7%から30%という目標があるが、達成するためには、未処置歯

なので歯科受診をするということになってくるが、歯科受診をするためには、52枚目の表にある1年間に歯科検診を受けたものの割合を55.8%から60%にすることが大事になってくると思う。

また、歯が残っている人が増えてきたので、成人期のむし歯予防のためにフッ化物を活用して普及啓発をしていくことが必要になってくるのではないかと思うが、事務局より報告があったフッ素入り歯磨き剤の使用率は36.5%で、市場の占有率が90%以上でほぼ売っている歯磨剤にはフッ素が入っているが、それにもかかわらずアンケートでの使用率が低いのは、市民の皆さんはフッ素が入っていることを知らずに使っているということではないかと思う。

フッ化物の活用は子どものむし歯予防というのは徐々に浸透してきたのではないかと思うが、大人についても、やはり意識づけが必要である。

成人期のむし歯について、課題や目標値等についてご意見いただきたい。

松本委員、前回の会の時に、歯医者にはほとんど行っていないというようなお話をされていたと思うが、周りの40代くらいの方でむし歯をそのままにしているような方がいるのか、また受診するきっかけについてなど教えていただきたい。

#### 【松本委員】

前回の会で、僕自身もしばらく歯医者に行っていないという話をしたが、あれから何か月か経ったが、結局まだ行っていない。

仕事柄、周りには現場の作業員の方がたくさんいるが、歯がだいぶ無いという方が結構いる。その方達は、本当に困らないと歯医者には行かないのだろうと思う。

現状で歯が何本かしか見えていないという方もいるが、多分困っているのだろうが、困っていることに慣れていているような感じがする。歯医者を受診するきっかけというのは、歯が痛くなった、口の中が痛くなったという理由だとは思うが、そういった理由で歯医者に行くために仕事を休みたいという方がまれにいる。歯医者に行ってみてどうだったか聞くと、歯ぐきが腫れているため、今日は治療ができないと言われて次の予約を取って帰ってきたが、腫れが引いて痛みがなくなったので予約は取っているがそのまま行っていないというような…自分の周りにはそういう人達ばかりのため、どうやったらその人達が歯医者に行くのかは今想像が付かないので、誰かアイデアがあれば教えていただきたい。

#### 【田岡会長】

歯医者としては耳が痛い、沼田委員、今話を聞き、どういうふうな対応策が考えられるかご意見いただきたい。

#### 【沼田委員】

先月、9月の下旬に歯科の講演をしてほしいと事業所から依頼があった。

その時の業種が建設業で、土木とか建築の現場の方だったため、まず我々が考えたのは、

忙しい現場の方だと休みが取れず歯医者に行けないという方も多いのではないかということ、公務員の方はきっちり受診するというイメージがあるため、やはり職種や職場によって、ケアの仕方が全く違うということだ。

その講演会で口腔ケアの話をしたが、その中の一つとして「3つのマッチングをしましょう」という話をした。

1つ目は、先ほどフッ素入りの歯磨剤の話が出たが、歯磨き粉とか歯ブラシを選ぶ時、あまり意識していないことが多いと思うが、歯ブラシは、むし歯や歯周病予防、ホワイトニングで全然加工が違う。実は歯磨き粉も、その歯ブラシの効果を出すための歯磨き粉があって、むし歯予防の歯ブラシにはむし歯予防の歯磨き粉を、歯周病予防の歯ブラシには歯周病予防の歯磨き粉をセットで買ってくださいますという説明をし、早速帰りにドラッグストアで買ってみませんかという話をした。

2つ目は、歯と歯の間の歯間に清掃用具をという話をした。歯磨き粉にはフッ素が90%以上入っていて、これだけ使っているのに、むし歯本数はなかなか減っておらず、原因は？となると、歯と歯の間を磨いていない方が非常に多く、日本人の約5割は磨いていないと言われているため、その5割の方は、歯と歯の間の汚れを残したままになっているということになる。

爪楊枝等で歯と歯の間のケアをやっている人もいるが、それは正しいケアではなく、歯間の清掃のケアができていない方は大体全体の2割と言われている。

歯間清掃用具で歯間を正しくケアするためには、歯科医院を受診し歯科衛生士の指導を受けることが必須だとエビデンスベースで言われている。

3つ目は、一番大事なことだが、やはり仕事をしながら予防するということである。

どんなことかということ、最近薦めているのが、ぶくぶくと口をゆすぐ、洗口剤（うがい薬）である。ポケットサイズのデンタルリンスや液体の歯磨き剤が市販でも売られている。

ああいったものを例えば事業所のみなさんが使う洗面所に置いておくとか、仕事の出先で自分のポケットの中に入れておけば、水はいらないのでその場でぶくぶくをするだけでも口の中のケアに繋がる。

あとは、先ほど口腔機能という話も出たが、口の中でつばの役割というのは非常に大切で、仕事の間、運転して現場まで行くまでの間にガムを噛んだりするのも良いと話している。デスクワークをする総務の方であれば、職場にいろいろなお菓子を置くのではなく、歯にとって効果があるガムを置くなど、食べ物をちょっと変えるだけで小さなケアができるという話をしている。

先ほど、松本委員からお話があったように、みなが様々な状況で仕事をしているため、仕事が優先されることも非常に多いと思う。その事業所それぞれに合った形での口腔ケアについての啓発がやっぱり必要かなと考えている。

本当に歯科医師の耳の痛い話じゃないが、自分たちがそれに対して勉強するということが非常に大切だと思うので、歯科医師会でもそこら辺のところを考えていこうと思う。

**【田岡会長】**

上原委員，協会けんぽとして，今の話を聞いて，何か今後対策できそうなこととか，考えていったらいいことなど何かあるか。

**【上原委員】**

協会けんぽの保健指導では，体の方がメインになってしまって，口のケアのところまでは時間的にちょっと難しいところがあるが，特定保健指導以外の方への指導を依頼された時に，歯周病のリーフレットを使って話をしている。

あとは広報的な取組で歯科の内容を入れていくとか。リンクを張って見ていただくといった工夫で，広く周知をするということをやっていないといけないかなと思っている。

**【田岡会長】**

続いて，50枚目の表の歯周病予防の中学生の歯肉炎予防については，中学生の歯肉に炎症所見を有する者の割合27.8%から23%とあるが，歯肉炎予防には，口腔衛生習慣の確立が必要になってくるが，それ以外にも口呼吸や口腔機能の育成というような課題も今後出てくると思う。

この歯肉炎予防について，課題とか目標値についてのご意見をいただきたい。

まず，大野委員，口からはじめる食育推進事業で小学校，中学校の指導に行っていると思うが，歯肉炎予防について感じていること，今後の課題について教えてほしい。

**【大野委員】**

本当に難しい課題だとは思う。

現状，高知学園短期大学も中学生の指導に学生が行っているが，この時期は，先ほど話にも出ていたクラブ活動が忙しいとか，あとはホルモンの関係もあり歯肉炎はどうしても多くなってしまう。

本学としては，指導の中で，口呼吸と鼻呼吸の違いや，歯肉炎の原因が歯垢にあるということに一番力を入れて，中学生にも指導を行っている。

最近ではコロナで口の中は見えていなかったが，以前から中学生の歯肉炎は気になっていた。

ところによってはフロスを推奨するところもあったが，歯肉炎とフロスは切っても切れないものということで考えている。

**【田岡会長】**

フロスの指導というのはあまり考えてなかったですが，やっていきたいと思う。

**【田岡会長】**

松岡委員，小学校での歯肉炎の予防についてだが，最近マスクを外す児童が増えてきたと思うが，先ほど大野委員からも出たように，口呼吸が多いだとか，口腔内に影響が出て

きそうな変化など、感じることはあるか。

**【松岡委員】**

コロナ前から変わることなく過ごしていたので、どうだったかな？と今振り返っているような感じだが、子どもたちは確かにマスクを外す機会は多くはなったが、学校生活の中で、口が緩んでいるなど感じることは、今のところはあまりない。

今日のこの会を受けて、来週から子どもたちの口の周りをしっかりと見て、気づくことがあったら、その時にお話させていただきたいと思う。

**【田岡会長】**

続いて、49枚目の健康格差の縮小の表と51枚目の歯の喪失の表にある40～60歳代で自分の歯が19歯以下の者の割合 11.4%から5%という目標がある。

40歳以上で20本以上歯が残っている人の割合は全国に比べて少ないという結果も出ている。また51枚目にあるように生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得・維持・向上の表の50～60歳代で何でもかんで食べることのできる者の割合 77.3%から90%という目標があるが、達成するためには、歯の喪失防止と口腔機能維持・向上の取組が必要である。

歯の喪失防止のためには、歯周病予防が必要だが、50枚目の歯周病の予防の表にある20代～30代における歯肉に炎症所見を有する者の割合 22.4%から15%とあるが、予防のためには、定期的な歯科受診が必要で、その予防する意識のためには、歯周病と全身疾患の関係について周知度を上げていくことが大切で、歯周病と全身への影響周知度の増加 糖尿病 54.6%から60%、早産・低体重児出産 34.0%から40%、肺炎 37.4%から45%とある。

歯科受診については、52枚目の表にある1年間に歯科検診を受けた者の割合を55.8%から60%になる。

歯周病予防、歯の喪失防止、口腔機能の維持・向上についての課題や目標値についてご意見いただきたい。

まず、高崎委員、医科歯科連携推進事業にご協力いただいているが、50歳～60歳代で何でもかんで食べることのできるものの割合を77.3%から90%ということについて、特定健診の間診にも食事のことで噛んで食べる時の状態というのがあると思うが、噛めないとか、ほとんど噛めないとか言われる方に対して、歯医者へ行きなさいというだけでなく何かツールなどがあったほうが良いなど、ご意見いただきたい。

**【高崎委員】**

まず、私の医院には、どちらかという高齢に近い方がたくさん来ているが、その方々は糖尿病や生活習慣病の患者さんが非常に多いが、歯周病や歯科口腔的な疾患が全身に影響するということは割と知られていない。そういうこともあって、歯科医師会が作成したリーフレットを待合に置き、糖尿病患者には、まずは歯周病をチェックしてくださいということを必ず言うようにしている。



患者さんの中には、歯周病と喫煙とその他のコントロールが必要な人がたくさんいて、なかなか一筋縄でいかないが、とにかく歯周病と全身の疾患の関係について、糖尿病のコントロールや肺炎のリスクにも関係するということを必ず言うようにしている。

**【田岡会長】**

リーフレットを使っていただきありがたい。歯科医師会としても広く配布することに重点を置いていきたい

**【田岡会長】**

植田委員も医歯薬連携推進事業にご協力いただいているが、歯周病と全身疾患の関係について周知度をあげていくことや、定期的な歯科受診を薬局から進めていくために何かいい案やご意見があればいただきたい。

**【植田委員】**

今年度の薬剤師会の事業としては、まだ具体的に把握をしていないが、歯科との連携ということでオーラルフレイルを中心に、特に在宅関連になると思うが、そういった取組を開始しようとなっている。

あと、高崎先生からもお話のあった、このリーフレットについては、薬局は高知市内におよそ 200 軒と数も多くあり、市民の目の届くところに配置できるということは薬局の強みかなと思っているので、何か気になることがあったら声掛けをするよう、良い機会として薦めていきたいと思っている。

**【大野委員】**

お願いなのですが、20代～30代の歯肉炎の減少ということで、このリーフレットを学生に配布することはできるか。いただけたら全学挙げて配布したいと思っている。

**【田岡会長】**

早束手配をする。

**【田岡会長】**

口腔機能の取組についてだが、29枚目の表にある3歳児の食べ方の困りごとは減っているが、30枚目の表にある不正咬合の上顎前突や過蓋咬合が増えていて、口腔機能が関係した不正咬合が増加しているのではないかと感じている。

国の目標値にはなかったが、高知市のオリジナルで3歳児でぶくぶくうがいをしている者の割合90%と設定している。

子どもの口腔機能の取組について、現場で感じている課題や、今回示されている目標についてなどご意見をお願いしたい。

水口委員、子供たちの食べ方とか口腔機能について感じることや課題、園として取り組んでほしいことなどご意見をお願いしたい。

**【水口委員】**

子ども達のことは、保護者の考えに偏ってしまうため、保育園としてできることとして、お昼のフッ化物洗口に取り組んでいる。

職員から声をかけたとしても、やはり興味がない方はずっと興味がないままなので、難しいところだと思う。

全然関係ない話かもしれないが、年に1回の健康診断を社会人は受けていると思うけれど、その中に歯科も強制的に入れるなど、もっと親が興味を持てるようになったらいいと思う。

自分自身の歯のことに興味を持っている家庭のお子さんはすごく口の中がきれいで、やはり保護者の考えがそのまま子どもに行くため、保護者への口腔に関する指導ができるような体制が取れたらいいと思う。

**【田岡会長】**

今、高知市は40歳50歳60歳対象の歯周病検診と、女性健診があり、健診事業を徐々に行政の方でも実施している状況だが、20代、30代は全員対象の健診はない時期なので、水口委員が言われるような保護者の意識向上というところを取り組んでいけたらと思う。

**【田岡会長】**

あとは、大野委員、最近の子ども口腔機能というか歯列不正について、自分も健診をしていたら、ほとんど過蓋咬合ではないかというぐらいで、舌の動きが悪い子どもたちが多くなっている。高知学園短期大学の学生も園へ指導に行ったりしているが、今後我々が啓発していく上での課題など教えてほしい。

**【大野委員】**

不正咬合については分からないが、口腔周囲の筋肉のことについては、これから取組を強化できるようにしていきたいと思っている。

**【田岡会長】**

今の子ども達は、口の中を使うことができていないというか、柔らかいものばかりを食べているとか、食事の時間がかかるなどいろいろ食べることの課題がある。

そういうことを踏まえて、歯科医師会として普及啓発をしていけたらと思う。

沼田委員、最初の説明にあったように、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりということで、これまで目標値等々の話をしてきたが、歯科医師会として、今後どのような取組をしていったらいいかご意見をお願いしたい。

### 【沼田委員】

歯科医師は口腔のスペシャリストとして日々仕事をしているが、例えばむし歯、歯周病については、我々のプロフェッショナルの中で、ある程度解決できるような問題が多いため、目に見える結果が出やすいが、今お話があった筋機能に関しては、筋肉は口の中だけの問題ではなくいろいろな背景も関与している。

先ほど水口委員が言われていたように、親の教育、それをするためにはその親の仕事や忙しさ、家庭環境や社会背景とか、いろいろなものが関与している。

ですので、歯科医師会としてできることというのは、今お話があったようにライフコースアプローチの実現のためには、多職種でやっぱり連携をして情報を共有するということがまず行っていかなければならないと考えている。

今まではいわゆる痛いとか、口の中をきれいにしたいとかいうことが、歯科というイメージがあったが、今後は、食べるとか、飲み込むとか、体を動かすとか、そういったことに少しでも多くの歯科医師がベクトルを向けて活動することが必要で、そのためには、先ほども話があったように、地域の方々からいろいろな情報共有が必要になってくると思っている。

今日ご意見のあった、校長会や生徒会などへの現場へのアプローチ方法は、歯科医師会としてもいろいろな形で協働していきたいと思っている。

また、リーフレットについても、大野委員からは高知学園短期大学の方で配布していただけたという話であったり、高崎委員がクリニックの方で配っていただいていたとか、水口委員が言われていたように、目に見えるものをまず配布をするとか、そういったどのような方法が効果的かということを考えることも必要だと思っている。

そして、ライフコースアプローチで欠かせないものは、健診事業かなと思っている。

この健診事業も、先ほども会長が言われていたが、若年層と、それから年配層に関しては充実している。ただ、20代30代の健診、そういったところが今のところまだ完全に整備されていないということを考えると、隠れた問題が社会に蔓延しているのではないかと思うので、こういった辺りのことをまた歯科医師会としても考えていきたいと思っている。

### 【田岡会長】

最後に、資料の一番最後の裏のページの、第三次健康づくり計画重点目標に掲載する三つの目標というのがある。項目、目標等は歯科口腔保健の目標の中にあっただけだが、健康日本21で、歯科保健の目標として出している目標値を参考に、予防・健康づくりの推進と関係ある項目を選んだということだった。

私としては、やっぱり周知度をもうちょっとしっかり上がられたらと思う。

我々歯科医師にとっては、この糖尿病、早産、肺炎等が歯周病と関係するということは当たり前のことのように認識していたので、知らない方がこんなにたくさんいるということを知った時は驚いた。

できればもっともっと、100%に近い人たちに知ってもらえればいろんなことが進んでい

き、改善されるのかなと思う。

この3つの目標値についてご意見等あればお願いしたい。

**【水口委員】**

早産、低出生体重児出産のところですが、今回配布されたリーフレットは糖尿病と歯周病に特化しているようなリーフレットになっているので、ぜひ早産とか低出生体重児の女性向けのリーフレットを作ってください、それを子どもも関わる場所に配布してもらったらもっと周知度は上がるのではないかと。もしそういったリーフレットが作成されたら、保育園としても精一杯配りたいと思う。

**【田岡会長】**

昨年度のリーフレットは糖尿病に特化したものを作成した。

今後、医歯薬連携推進事業等を活用して、他のテーマのもの、早産、低出生体重児に関するリーフレット等も作っていただけるといいと思うので、その時は協力をお願いしたい。

**【事務局】**

閉 会

事務局より連絡事項

委員の皆様の任期は令和6年3月31日まで